## 処 方 箋

カルテ番号		発行	年	月	日	
病名						
処方	・分類:胆石溶解薬 ・分類(略称):胆肝消化機能改善薬 ・用法:経口(錠) ・表示区分:なし  「禁忌・慎重投与] ・禁忌:完全胆道閉塞のある患者、劇症肝炎の患者 ・慎重投与:重篤の膵疾患のある患者、消化性潰瘍のある患者、胆管に胆石のある。者など  「作用] 胆汁分泌促進作用(利胆作用)により胆汁うっ滞を改善する。また肝臓で細胞障害の高い疎水性胆汁酸と置き換わり、疎水性胆汁酸の肝障害作用を減弱させる。さらに、サイトカイン/ケモカインの産生抑制や肝臓への炎症細胞の浸潤を抑制し肝能を改善する。 「適応] 胆道系疾患及び胆汁うっ滞を伴う肝疾患における利胆、C型肝炎を含む慢性肝疾患おける肝機能改善、外殻石灰化を認めないコレステロール系胆石の溶解、原発性胆性肝硬変における肝機能改善、小腸切除後遺症、炎症性小腸疾患における消化不良 「副作用」 同質性肺炎、下痢、食欲不振、掻痒、AST・ALT上昇など 豆知識(国試対策事項や使用の注意等) ●体内で生成される5種類の胆汁酸で最も親水性が高く、細胞毒性が少ない ●生薬の熊胆の有効成分の一つで発見から単離、化学合成に至るまで日本で行われば、ラテン語の熊を意味するUrsusから名づけられた ●第3類医薬品としてOTC薬としても販売されている					害性 悪胆 良 に 汁